

ふしみさらダボール子育て情報

「電子機器と乳児」

令和元年6月5日号

板橋富士見幼稚園



電子機器と子どもの知能

時代の変化と共に、電子機器は便利な道具として家庭や社会を大きく変えてきています。こうした中、最も頻繁に活用していると身近に感じる電子機器は、パソコンやスマートホンではないでしょうか。

生活をより便利に豊かなものとしていくためには、電子機器は今や欠かすことのできない地位を占め始めています。

しかし、その反面、親の使っているこの便利な道具を、子どもにどこまで使わせて良いかについて、不安を持つ方も多いのではないのでしょうか。

今日は、この電子機器の与え方についてお話します。

その前に、ちょっと海外での電気機器の開発基地（サンフランシスコのシリコンバレー）のお話をしたいと思います。広さは杉並区の大きさがあるそうです。この入り口に楽天（RAKUTEN）の大きなビルがあり、そこから広がる6車線の道路を進むと、フェイスブックやマイクロソフト、グーグル、アップルなどの電子機器メーカーが未来都市のように立ち並び、構内は、電気自動車や電気バスが行き交う、広大な電子機器の発信地となっていました。近い将来、急速に世界がAIの時代に突入することは、間違いのない事実であると感じました。

そこで、日本では、20年後に職業がAIに占められる割合を40%と予測し、その時代に向けた教育についてどう組み立直すかの議論が始まったばかりです。



日本でも、乳幼児期からの生活が大きく変わりつつあり、今や子育ての玩具として、スマホが使われるようになってきました。また、パソコンを介して、学習ソフトで早期に子どもに学ばせようとするご家庭もあるようです。

こうした中で、小児科医でお茶の水女子大学副学長の榊原洋一先生は、「スマホの影響に関する研究結果や科学的根拠はまだありません」と述べています。

ご家庭では、どんな時にどのくらい子どもに与えていらっしゃるでしょうか。スマホやゲーム。パソコン学習を子どもに与えるとき、今現在、特に電子機器の使用について、科学的根拠を持って害を指摘するものは見当たりません。

ただ、重要なことは、相手が、感情のない会話や指示などについてやり取りする電子機器であることを、しっかり認識することです。乳幼児期に最も重要なことは、他者との感情を介した直接的対話であると言えます。

なぜなら、言葉を脳に記憶させていく学習過程では必ず感情が必要となるからで、温かな人との対話を十分に確保した中で、電子機器を上手に使い分けてほしいと思います。